

令和4年度第2回小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会 結果概要（助言事項等）

令和4年12月26日に開催された令和4年度第2回小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会における管理機関への助言事項等は以下のとおりである。

（1）遺産管理に関する報告事項

①遺産委員会決議事項の進捗報告

管理機関より報告のあった世界遺産委員会決議への進捗状況については、科学委員会より了承された。その他、世界遺産委員会決議における要請事項に関する助言事項は以下のとおりである。

【要請事項 a：外来種対策について】

- ・未侵入の外来種対策については、現状のとおり侵入し得る種群は想定しつつも、特定の種に力を入れるのではなく、基本的に全ての外来種を侵入させないこと、外来種の侵入経路を管理する（パスウェイコントロール）ことが重要である。今後、侵略性の高い外来種がさらに侵入してしまうような事態になれば、取返しのつかない状態になってしまうため、水際対策については母島のみならず父島も含めて、さらにスピード感を持って取り組んでいくこと。

②科学委員会下部WGからの報告に関する助言

各WGから示された方針、取組状況について、科学委員会より了承された。各WGからの報告に関する助言事項は以下のとおりである。

<グリーンアノール対策ワーキンググループ>

- ・WGで整理されたとおり、大丸山に囲い込み柵を設置する方針で、柵の整備、ロードマップ（2023-2028）の検討を早急に進めること。

<陸産貝類保全ワーキンググループ>

- ・兄島におけるネズミ個体数の回復速度は危惧すべきものと思われるため、速やかに対処するとともに、今後、同じような事態が生じないような対策を実施すること。
- ・母島のエリマキコウガイビルについては、駆除手法開発に向けた研究を進めること。
- ・母島におけるアジアベッコウマイマイ対策は急務であることから、さらなる予算・人員の確保に努めること。

<母島部会>

- ・部会で整理されたとおり、土付き苗の温浴（通称：ははの湯）については、周知の強化をはじめ、各種課題の解決を進めること。
- ・次年度以降の部会のあり方について、何らかの形で母島の課題について議論する場が必要と思われるため、引き続き委員や母島の地域連絡会議参画団体とも意見交換しながら検討すること。

<小笠原諸島における在来樹木による森林の修復手法検討会>

- ・検討会で整理されたとおり、継続が必要な検討や試験等については、検討会閉会後も管理機関等で適切に引き継ぐこと。
- ・オガサワラグワの保全については、「オガサワラグワ保全スキームを考慮した基盤情報の整備と

今後の流れ」に整理された方向性で、引き続き検討・調整を進めること。

(2) その他

- ・母島列島におけるオガサワラカワラヒワ対策は、引き続きしっかりとモニタリングをしながら、取組を進めていくこと。
- ・母島における拠点整備について、引き続き検討を進めること。
- ・新たな遺産価値の再評価については、科学委員会としても推進したい。再評価にあたっては調査研究の推進が必要であるため、管理機関と科学委員会が連携して検討を進めること。

以上